

学校は嫌いじゃない。話し相手もいる。たとえば昨日NS電話でZ21のことを話し合った石垣。初等部から上がってきた人が多い中で、中等部から入ったマイノリティ同士だから、話しやすい。

でも、登下校はめんどうくさい。うちが駅まで遠いせいもあるし、電車が混んで乗れないこともあるから、なんだかんだで一時間以上かかる。とうさんは「うちから駅まで十分ちよっと」って人に説明するけど、本当は早足で十五分かかるし、重い通学カバンを持っていると十八分かかる。大雨だったりすると、もつとかかる。ひどい雨だと母さんが駅まで車で送ってくれるけど、今はそれも望めない。きつと明日も雨だろう。

電車はいつも混んでいて、すし詰めどころか真空パック状態で息もできない感じ。雨の日はとくに、傘や濡れたレインコートなんか擦れ合って最悪だ。ラッシュアワーを避けようとする、朝六時半までに家を出ないといけない。そんなの絶対じゃない。

雨雲のせいで朝九時にしては暗い外を見ながら、朝食のことを考えていた。何を食べようかな。

顔を洗ってダイニングキッチンに行き、冷蔵庫の中に残っているものをチェックする。タマゴも牛乳も、ぎりぎり賞味期限内。ホットケーキミックスはあるし、シロップはないけどハチミツはある。三段重ねの特大大ホットケーキは

どうだろう。どうせとうさんも麻まも昼まで寝ているんだろうから、自分の分だけ作るうっと。

我ながらパッパッと手際よく作り、一枚目のホットケーキの上にプツプツと気泡ができてからひっくり返す。コーヒーマーカーにフィルターと水とコーヒード豆をしかけて、ミルクをチンした。

「いい匂いじゃん、なに作ってんの？」

麻がうれしそうに近づいてきた。ちえつ、こういう時に限って早く起きるんだよな。

「ホットケーキ。自分用の」

「パンケーキね」

「パンケーキ？」

「英国じゃみんなパンケーキって呼ぶって、シヨーが言ってたよ。ねえ、ちよっとだけあたしにもちようだよ」

ほくはムツとして麻を見た。急に甘ったるい声を出して、本当に策略家だ。

「やだよ。せつかく三枚重ねを作るために多めに生地を用意したのに」

「ちよびつとでいいから。ね？ あたしにはそんなの作るきゃパないんだからさあ。タクトが心配で一晩中泣いたかわいそうな姉に恵んでよお」

麻がウソをつく時は、すぐにわかる。とうさんがウソをつく時と同じ表情をするから。